



ハントンの通信

いつまで続くか
不定期発行
No. 013

16-90177

精神科の訪問看護が していること

精神科訪問看護というのは、どんな支援をしているのかが分かりにくさがあるようです。一般の方からだけでなく、患者さんやそのご家族、時に精神科医師や精神保健福祉士までが「ハントンさんに、こういうことは頼んでいいのでしょうか？」と問い合わせをいただくことがあります。

人の生活は地域に戻れば十人十色ですから、施設や入院中のような規則がないだけに、このような問い合わせがあるのだと思います。

ハントンの場合は、

- ・曜日や時間を決めて、看護師などが訪問します。
- ・心や身体の健康向上のための支援をします。
- ・お薬の相談や、血圧など気になる部分の確認をします。
- ・腰や膝の痛みを予防する体操を一緒にすることもあります。
- ・一緒に買い物に出かけることもあります。
- ・苦手な家事を一緒にしたり、一緒に料理を作ったり、喫茶店に行ったりもします。
- ・時間いっぱいまで、ずっとお話しをするという場合もあります。
- ・ご家族とお話しをすることもあります。
- ・ゲーム(将棋やオセロなど)をする場合もあります(たいていは利用者さんのほうが強いです)。
- ・利用者さんやご家族から「ただ来てくれるだけでいいから」と要望される場合もあります。
- ・などと説明することが多いです。一見すると、看

護には見えないかもしれませんが、地域で暮らす時の「希望」と「安心」を感じてもらえるように寄り添う事を考えています。(精神科訪問看護の事業所によって方針は異なる部分があります。詳しくは依頼しようとするステーションにお問合せ下さい)

それって看護ですか？

精神科の訪問看護で勤務する看護師さんたちにとって、「それって看護と言えるのですか？」という声を聞くことがあります。福祉的な場面に遭遇することがあるからです。「あれでは、甘やかしているだけだと思いませんか」とか、「医療はそこまでするべきではないと思います」とかです。

施設系で長年教育とキャリアを積んだ人、真面目な人に多い傾向です。そういう人は管理的・教育的な方針を立てる場合が多いです。例えば、血糖値を下げるための教育プログラムを立てて、数値的・管理的な指導をしようとしてしまいます。病院でしていたことを、そのまま地域で実践しようとしてしまうのです。もちろん、その方針でうまくいく

なら良いのですが、たいていの場合はうまくいきません。

すると、見放してしまうとか懲罰的な対策を立てるといふ流れになってしまいます。「いわれた通りにしないうから、あなたはダメなのだ」とペケを付けてしまうことになるのです。

地域精神科看護とはそうではなくて、血糖値が高いなりの生き方をしている人の人生に、いかにして寄り添えるかなのだと考えています。時に助言・提案をしたり、厳しく接する面もありますが、基本的にはその人生を肯定していくこと。ペケではなくマルを付けていくことが大切です。

さまざまな生きにくさをもつ人の人生に寄り添う時に、こちらの人間力のようなものが必要だと感じます。それがとても勉強になりますし、人間の幅が広がるような気がします。



お知らせ

精神保健福祉パネル展を開催します！

日時：平成28年10月27日(木)28日(金)
場所：吹田市役所正面玄関ロビー

もちろん無料です。

心の病気を正しく理解し、地域で共に安心して暮らせる社会を築いていく事が大切です。

パネル展では吹田市内にある支援機関の紹介をしたり、授産製品の展示をしています。

問い合わせ：06-6984-1349(吹田市障がい福祉室)



コーナー

ハントンでは、精神科グループホームも運営しています。

今(H28、10月)は満室です。定期的な訪問看護だけでなく、生活面に関われるグループホームをしていることで、その方の事がよく分かるようになってきました。

看護師さんには言えないような、何気ない言葉を聞くことが出来るのも、グループホームならではのですね。